

復興に向け

「緑の復興アクションプログラム策定委員会」立ち上がる

概要

1. 事務局

本部事務局 長岡造形大学復興支援センター内
長岡市宮関197番地
子一ム事務局 社団法人長岡市公園緑地協会内
長岡市蓮瀧3丁目2番33号

2. 構成員

顧問 長岡造形大学教授 平井 邦彦氏
長岡市緑化推進指導員 小林 正夫氏

3. 目的

10・23の大規模地震でふるさとの大地が無残な姿をさらし、国・地方自治体挙げての本格的復旧が始まった。そこで、緑化関連では地域唯一の公益法人である協会としても復興支援の手段として造園的視点からの発想で復興策を提案・具現化することで、豊かな自然共生空間を活かした景観整備や地域の伝統文化に重きを置いた復興事業実現の一助になることを

を願い、本事業を立ち上げることにした。

具体的には、県・市の示した復興ビジョンを基に造園会から具体的なアクションプランを提示し里山の景観復元はもとより農業を始めとする産業基盤の復興に寄与し、文化の薫り高いふるさとを創出することを目的に主として以下の活動を行なう。

造園的視点から見た景観復元の

具体的手法の実験と提案

- ① 棚田・法面・河川・里山・砂防・貯水池・公園・空地等の整備技術の提案。
- ② 地域民との協同プログラムの具体的提案。
- ③ 自然生態系の保存に関する技術提案。

4. その他

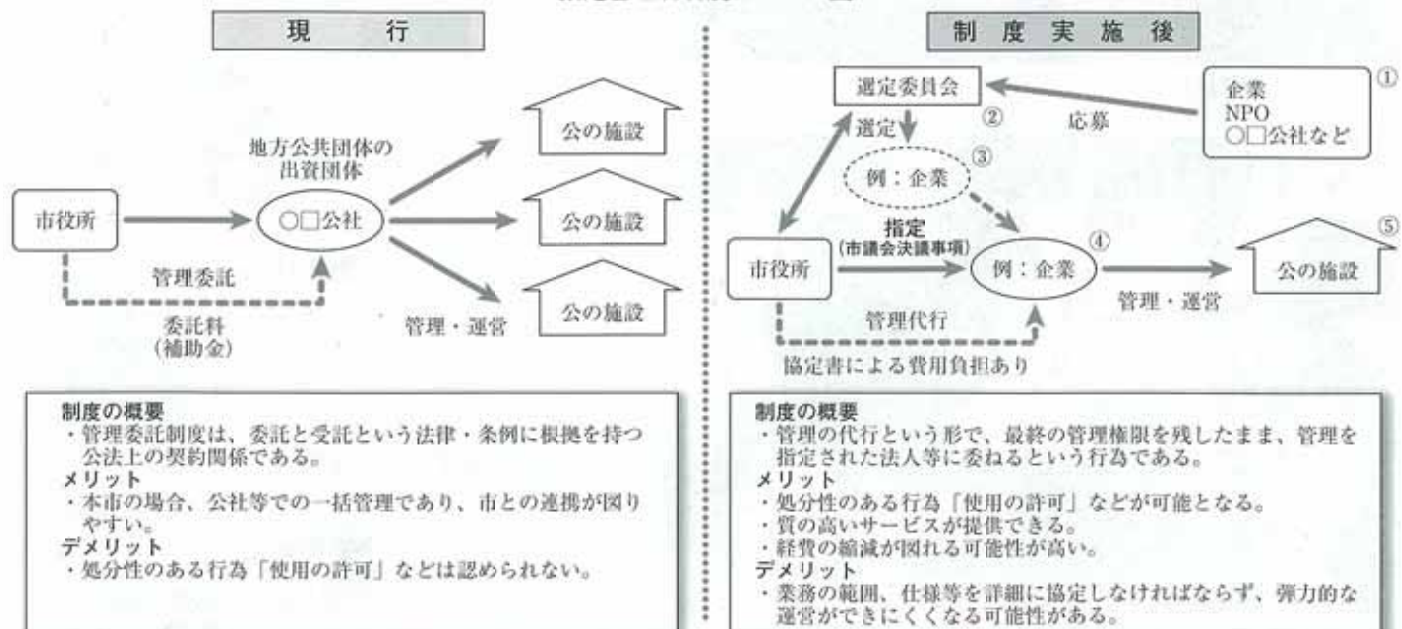
- ① 事業本来の目的を達するに必要な事実についても、積極的に推進する。
- ② 県緑地建設業協会・長岡市緑地環境協同組合等関連団体と協調して活動する。

長岡緑地環境協同組合 主幹 佐藤 文高

攻防走破

平成15年9月「官から民へ」。「自治体リスト法」とされる指定管理者制度が施行。現行の管理委託制度は廃止され、社会福祉協議会、事業団、公団・公社などに管理委託されている事業は、3年以内に民間へ委託されるか直営に戻すかが迫られております。この事により、垣根を越えた幅広い業種が参入してくるに違いありません。ピンチがチャンスでもあり、早急に幅広い体制を整える必然性を感じます。今や「業界」なる言葉は魔語に等しく、まさしく英知衆力、攻防走破なのは……

指定管理者制度イメージ図



ふるさと創造的復興に向けて

理事長 鈴木 重吉



雪解けと同時にいたるところで大震災の爪痕が無残な姿をさらしている。

「震災直後からしばらくの間は皆さんのご支援や温かい励ましの中、一種のお祭りのようなざわめきの中に身をゆだねてきました。心の片隅でも現実逃避が働いて、こんなひどいことばみんなを夢でんだと無理に思い込もうとしていた自分がいました。雪消えと同時に露わになったふるさとの惨状と見せ付けられ、まざれもなく現実だった、ことを思い知らされました。」

ある被災者の心情を吐露した言葉が私の胸に重くのしかかる。そこには強烈な苦難を伴う復興への荒道が待っている。

しかし、腹の底にはひそかにふるさと復興への熱き思いがたぎっていることも確かだ。われわれ緑環境創造のプロジェクトとして

今こそ、市民と共に汗を流し、復興への植音高く邁進しようではないか。それこそが公益法人の使命でもあるのだ。

一丸となって生業を通じ地域に貢献しようではないか。

も、この一大事にあらゆる努力を惜しまず全力を注いでふるさとの復活に協力しようではないか。

特に、美しい風景や住みやすい空間の創出はわれわれの得意分野である。

今や全国民が新潟の復興のやり方を固唾を呑んで注目していると、いつても過言ではない。

それは決して型どりの復旧に終わってはならない。

その土地土地の歴史や文化、風土に思いを致し、其処に住もうとする人々の思いを最重点にして、更には次世代に誇れる手法を駆使して立ち上がる必要がある。

幸いにして造園の技法には市街地の景観整備の技術だけでなく自然共生のビオトープや法面保護・樹林整備など里山景観に必要な技法がいくつも存在する。それは「美しき大地の創造」に直接的に役立つ手法といっている。

忘れません！平成16年10月23日。千秋が原花の広場で皆さんと楽しくバンジーの植栽をした日でした。

全く予期しない突然の新潟県中越地震の襲来です。家は崩壊、家具の飛び交う中をどのように脱出したか今でも思い出せないが、相次ぐ余震で路に立ち竦むどころか、自然に四つん這いとなる有様でした。

この大地震による肉体的、精神的ダメージでは一人では歩行することが出来ない状態となり、一時は途方に暮れる始末でした。が、その頃鉢植えのサザンカが美しく咲き誇っていました。妻はそのサザンカを見て「あなたは、花や緑が守っているんですよ！頑張りなさい！」と励ましている様に見えたそうです。その後毎日サザンカと会話をしている中で、自然に立ち直ってきました。今でも私はサザンカに助けられたと言っています。

二月と三月に健康課から仮設住

花や緑に生かされて

長岡市緑化推進指導員 小林 正夫



その後、その人が「犬や猫は仮設住宅に連れてくるのができるが、庭のサザンカは連れて来ることができません。時々跡地に行く」と早く帰って来てくれと言っている様で。

こんな言葉には、本当に胸が痛みました。

私たちはよく「花や緑を育てる」と軽い言葉で言っていますが、それは人間の傲慢な態度で、本当は人間は「花や緑に生かされている」ことを、この度の地震で染みと貴重な体験をさせていただきました。

大震災4時間前、花の広場での植栽風景